



包括先進医療棟完成予想図

昨年十月一日から立体駐車場の使用が開始されました。かねてから問題となっていた慢性的な外来駐車場の渋滞を解消し、外来患者の負担を軽減するため、四月一日〜九月三十日まで工事が行われたものです。

鉄骨造二層三段で、延べ面積 7500m<sup>2</sup>、駐車台数は 128 台増えて 700 台となりました。駐車場内には水道とコンセントが備わっており、災害やパンデミックが発生した際、治療施設として使用できるようになっています。

発展する信州大学医学部附属病院

整備が進む信大とその周辺②



また、この一月より、女鳥羽川寄り病棟東では、地下1階、地上7階の信州大学医学部附属病院包括先進医療棟が平成三十年三月完成予定で工事が始まりました。治療部門・病棟部門を取り込んだこの棟は、特定機能病院、がん診療連携拠点病院、高度救命救急センター、周産期母子医療センターとして高度な医療が、より多くの患者さんに提供されます。

病棟概要は手術室の増室、ロボット手術室の増室とハイブリット手術室の新設、ICUの造床、ハイリスク妊産婦の受入れを行うために母子胎児集中治療室を新設、また、患者ニーズの変化に伴い、6床部屋は、全て4床部屋化となります。また、信州がんセンターを移転し、信州のがん治療を全国のモデルケースにします。

「診療、教育、研究を遂行する大学病院としての使命

を有し、患者さんの人権を尊重した先進医療を行うとともに次世代を担う国際的な医療人を育成する」という基本理念に向かって発展していくための機能強化を目指す信大病院。地元のみならず長野県全体の期待を受けて完成が待ち遠しいです。

三月五日安原地区公民館委員、町内公民館館長会合同で、葦崎大村美術館と、尖石縄文考古館の研修を行いました。

大村美術館はノーベル賞を受賞した大村 智先生が、平成二十年、葦崎市に寄贈されました。優れた美術品は、本来は個人だけで楽しむものではなく、人類全ての共有財産であると思うからですと本人のあいさつ文に載っていました。選んだ作品一つ一つに大村先生の人柄がにじみ出るような温かい作品ばかりでした。

尖石縄文考古館は小学生の頃黒曜石について勉強したことを思い出します。狩をするのに大変貴重な石でその石が縄文時代いたる所と交流があったことに驚き、出土品の数から見ても、相当大きな集落だったと思います。



国宝「土偶」(仮面の女神)



石器の材料・原石・石核



国宝「土偶」(縄文のビーナス)

◆大村美術館

◆尖石縄文考古館

Mura Art Museum  
葦崎大村美術館



### ずいぶん違うんだ！ 外国人から見た松本

今年の安原地区人権啓発講座は、二月二十七日土曜日にカナダ出身の信州大学工学部教授のアサノ・デービッド先生を招いて行われました。「外国人から見た松本」と題しての講演をお聞きしました。

海外からの訪問者も増加している地方都市松本です。どのように見られているか、思いめぐらす良い機会になりました。隣人との人権、文化と歴史が違う隣国・遠い国々の方々と互いの理解を得る上でヒントとなりました。

先生の比較と分析は、目に見える景色・環境・日々の生活の有形・無形の指摘、その基礎となる精神状態まで、分類は多岐に渡り示されました。



熱心に聞き入る皆さん。

その幾つかを記載します。「緑・公園が少ない。住宅と工業地の区別が無い。住居に住人の名前が表記されている。玄関では靴を脱ぐ。和式トイレは、足が内側に曲がらず使用できない」等、国土の広い文化の異なる先生の感想が共存し、個人情報あまり隠さなくても安全に暮らせる日本を表しているのではありません。「人が多いがケンカも少なく治安が良い。チップを払わなくてもサービスが良い。丁寧で礼儀がある。」日本を好ましく評価する時によく聞く意見かと思えます。また反対に辛口に聞こえる内容もたくさんありました。「自分の

その幾つかを記載します。「緑・公園が少ない。住宅と工業地の区別が無い。住居に住人の名前が表記されている。玄関では靴を脱ぐ。和式トイレは、足が内側に曲がらず使用できない」等、国土の広い文化の異なる先生の感想が共存し、個人情報あまり隠さなくても安全に暮らせる日本を表しているのではありません。「人が多いがケンカも少なく治安が良い。チップを払わなくてもサービスが良い。丁寧で礼儀がある。」日本を好ましく評価する時によく聞く意見かと思えます。また反対に辛口に聞こえる内容もたくさんありました。「自分の

### 地域の話 ⑬ 患者さんとつきあう毎日 精神科医 湯澤千尋先生

昨年春の叙勲で、安原町の湯澤千尋先生が瑞宝中綬賞を受章されました。

湯澤先生は上伊那郡中川村の出身で信州大学医学部に進み、昭和三十九年に同学部精神医学教室に入局しました。県立駒ヶ根病院、諏訪赤十字病院へ赴任、昭和六十二年から三年にかけてはウイン大学へ客員無給教授として留学

回りは綺麗だが、車からポイ捨てる。イエスカノーをはつきり言わない。遠慮をす、それが本心か判らない。」日本人の美德と感ずることもありますが、できるだけ多くの方々に解りやすく伝える工夫が必要だと学びました。

### いちよう並木

#### 収穫を夢見、 惜しまぬひと手間

十二月、例年になく暖かい日々が続き、一月上旬には、既に梅が開花、驚きです。葉が落ち寒風を受け、春を待つ梅、この時期、必ず行わなければならないのが、枝の剪定と病害虫の駆除です。

枝の先端、葉がちじれた梅をよく見かけます。原因はアブラムシの作業です。また、幹にビッシリと寄生した艶のある球体のタマカカイガラムシは樹勢を奪い、枯れ木を招く基となります。芽の動かない冬季に病害虫の駆除のため、薬剤の散布が欠かせません。散布する薬剤は石灰硫黄合材・マシン油乳剤、スミチオン・カルホス各乳剤を使います。

七倍に希釈した石灰硫黄合剤を散布するとアブラムシや病原菌の被害を防ぐ事ができます。カイガラムシは錆び落しのブラシ等で擦り落とす事が有効です。その後、右記薬剤を散布すると効果抜群です。

薬剤の希釈倍率を間違えても芽の動く前は被害が少なく安心して散布できます。取り扱いは説明書をよく読み、事故にはご注意ください。



タマカカイガラムシに侵された樹皮

し、その間ベルリンの壁崩壊直前の東欧の空気を肌で感じ取った経験もあるそうです。定年退職まで勤めた国立小諸療養所では、職員間の対話を通じて経営立て直しを図りました。

湯澤先生は患者さんと時間をかけてじっくりつきあうことを心がけてこられ、精神科では珍しい往診もされたこともありました。来院を拒む再発の患者さんの家で二、三時間話をしても説得できず病院へ帰ったが、

夜中にご本人から入院したいと泣きながら電話がかかってきたこともあったそうです。「人は単純ではない。逆に患者さんから教わることもある」と話して下さいました。

現在は介護老人保健施設寿の里の施設長を勤め、ここでも入所者の方を目、耳、手で感じとって状態を全体的に診るようにし、デジタル化しないよう心がけていらっ



しゃいます。今まで自由きままに過ごしてきたが、自分も年をとって限界がわかってきた。今後は無理ない程度の旅行や集めてきた本やレコード、CDを楽しんだり囲碁を打つてみたい——穏やかに和な湯澤先生。これからのますますのご健勝とご健康をお祈りします。